

豊橋商議所で
救急医療講習

心臓病発作の対応学ぶ

「AED」紹介、実技指導も

簡単に操作できる優れた救命機器の使い方を覚

えて。26日夕、豊橋商議所ホールで各専門医に

よる救急医療講演と講習会が開かれた。

最近、多発する心臓病発作患者への救急対応を

一を使って説明。食べ物生活習慣などにも注意する必要があると話した。

第2部では、「心停止の救急措置」自動電除細動器(AED)の使い方」をテーマに、鈴木孝彦・豊橋ハートセンター院長が話し、実技指導なども行った。最初にプロジェクターで心臓病の増加や死亡率など説明。後半ではモニターとなるAEDについて現物紹介や実技、指導など行った。

AEDは、止まった心臓や心室細動の発生を電気ショックで、通常の心拍に戻す装置。操作は小

AEDを紹介、実技披露の救命講習会
—豊橋商議所ホールで

よる救急医療講演と講習会が開かれた。

最近、多発する心臓病発作患者への救急対応を皆で学び、一人でも多くの人命を救おうと豊橋内科医会、愛知県内科医会主催、豊橋市医師会、豊橋商議所医療関連サービス業協会の共催で行われた。

会場には一般市民、開業医など幅広い人たちが約100人が集まった。第1部は「心臓病に伴う脳こうそくについて」をテーマに、福井一裕・豊橋市民病院脳神経外科副部長が話した。最近の症例、現状などをプロジェクタ

一を使って説明。食べ物生活習慣などにも注意する必要があると話した。

第2部では、「心停止の救急措置」自動電除細動器(AED)の使い方」をテーマに、鈴木孝彦・豊橋ハートセンター院長が話し、実技指導なども行った。最初にプロジェクターで心臓病の増加や死亡率など説明。後半ではモニターとなるAEDについて現物紹介や実技、指導など行った。

AEDは、止まった心臓や心室細動の発生を電気ショックで、通常の心拍に戻す装置。操作は小

学校高学年でもできるほど簡単。小さな箱型で、胸に2つのパッドを付け、スイッチオンするだけ。音声が手順を教えるので安心。電気ショックが必要ない患者の場合は、作動しない。

アメリカでは30年前から普及。シアトルでは市民の半数以上がこの機器の使用法を取得。毎日、各地で講習会が行われている。日本は非常に遅れて、昨年夏にやっと一般の使用が認可された。空

港、駅、劇場、デパートなど人が多く集まる場所に設置されはじめたが、知らない人が大半。

愛知県では近く豊立高校、県施設などに設置予定という。鈴木院長は、大変優れた機器で、人間より正確に作動する。これで助かった人々も急増、心臓発作は1分1秒が生死を分ける。救急車が来る前にこれを使用すれば、かなりの人が救われる。皆で使用方法を覚える必要があると強調する。

また、「医師や救命士、市民の救命リレーを確立し、シアトルを自指して街ぐるみの活動をしてほしい」と訴えた。実技指導では、機器を披露し、一人形を実演。希望者がチャレンジしていた。

なお、同センターでは毎月1回、市民のための救命講習会を開催。AEDの使い方や心臓病(そ)生法など学ぶ。参加は無料。問い合わせは(37・3377)へ。

(星野のりこ)